

ハワイ・サブ部会がハワイ島で 持出会議を開催

JOTCハワイ・サブ部会はハワイ州観光局主催のハワイ島サミットに合わせて、7月18日に現地ハワイ島で会議を開催し、19日にはハワイ島を視察しました。

このトレッドショーは例年10月にホノルルで開催されているもので、今年は火山噴火による影響から需要が回復しつつあるハワイ島のさらなる需要喚起につながる目的で開催されました。トレッドショーにはバイヤーとして日本



活発な商談が行われました

から旅行会社及び航空会社が24社60名、ハワイから旅行会社が20名参加し、午前はハワイ島パートナー26社46名と、午後はハワイ島以外全島のパートナー41社70名との商談を実施しました。商談会ではハワイ島のサプライヤーから日本市場の回復と、将来の送客に期待する声が多く聞かれました。

今後の展望考える良い機会に

視察では噴火が沈静化したキラウエア火山など、現地の素材の様子を確認しました。今回のハワイ島訪問は噴火影響を含めた現状を把握するとともに、ハワイ・サブ部会で検討している旅行会社合同によるコナ／ヒロおよびヒロ市内巡回バスの運行や星空観測、またハワイ全体の離島プロモーションなど、今後の展望を考える機会となりました。

JOTC・航空会社インタビュー 第9回

日本キャリア初の成田／パース線を就航

2019年9月1日、全日空(NH)はオーストラリア西部の主要都市パースへ、日本の航空会社として初めてとなる成田／パース線を就航し、オセアニア西部への新規市場開発が期待されています。新路線に対する意気込みと今後の展望について伺いました。



全日本空輸株式会社

マーケティング室 観光アクション部 部長 藤崎 良一氏

——成田／パース線就航の狙いを教えてください。

藤崎 成田／パース線はシドニーに次ぐ2番目、世界では45番目の就航都市(貨物便含む)となります。当グループの中期経営戦略にもとづき、未就航エリアへ路線拡大の一環として、パースへの就航に至りました。

パースは「世界一住みやすい都市」のランキングで上位に選ばれており、街は洗練され治安が良く、固有種の動物が暮らすロットネスト島、ワイルドフラワー観光の拠点など自然も豊かで、近年脚光を浴びています。また日本とパースは季節が逆になるため、日豪双方にとって冬場のビーチリゾート、夏場のウィンターリゾートとして、安定したレジャー需要が期待できるでしょう。これまではシンガポールや香港などを経由していましたが、直行便の就航は利便性の向上につながると思います。

——今後の日本市場をどのように捉えられますか。

藤崎 航空業界ではLCCの参入をはじめ、路線数も増えてい

ます。2019年ラグビーW杯開催、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、2020年以降も羽田空港の発着枠が拡大し、成田空港の滑走路が増えることを考えると、必然的に国際線が増便され、イン／アウトの双方向交流が一層期待できると考えます。

——旅行会社へのメッセージを。

藤崎 当社では航空需要の拡大を見越し、国際線を中心に未就航地の新規路線開設を積極的に進めています。2019年10月27日からはデリ、ムンバイに次ぎインドでは3つ目の就航都市となる成田／チェンナイ線を就航します。旅行会社様にはぜひ、新たな就航路線を使った旅行商品とともに、2019年5月から成田／ホノルル線に投入している世界最大の旅客機エアバスA380型機利用の商品造成もぜひお願いします。

※インタビューの全文はJOTCのホームページ
(<http://www.jata-net.or.jp/outbound/>)でお読みいただけます